

Special Interview

日本初！伝説の女性ベーシスト本人インタビュー実現 キャロル・ケイ【Carol Kaye】



世界の音楽シーンにおいて、数えきれない名曲を支えてきた伝説のベーシスト、キャロル・ケイ (Carol Kaye)。モータウン、フィル・スペクターのウォール・オブ・サウンド、ザ・ビーチ・ボーイズ、マッスル・ショールズ、クインシー・ジョーンズなど、数々の歴史的セッションで活躍し、“スタジオミュージックの女神”とも称される彼女の声を、日本の読者が直接聞ける機会は、これまで一度もありませんでした。

このたび、The Walker's にてキャロル・ケイ本人へのインタビューが実現！日本の雑誌・メディアとして初めて、その音楽哲学、人柄、そして、ベーシスト魂を直接紹介できる歴史的瞬間となります。3月24日に91歳を迎えるキャロル・ケイ。音楽ファン、ベーシスト、セッションミュージシャンにとって、このインタビューは単なる記事を超え、日本における音楽文化史に残る貴重な記録となることでしょう。

【2026年2月取材・文：鯉登正之】

♪ 日本の雑誌・メディアのインタビューは初めてですか？ 日本に対するイメージを聞かせて下さい。

はい、初めてです。私は日本の起業家精神に畏敬の念を抱いています。日本の自動車は素晴らしく、世界市場に出ている製品も素晴らしいですし、日本という国、日本の人々のことも尊敬しています。そして、音楽的な才能（演奏力）もまた素晴らしいです！

♪ 音楽やベースと向き合う上で、最も大切にしてきたことは何ですか？

過去に優れたジャズ音楽を演奏してきた長年の経験、そして、薬物に頼らず演奏することへの完全な献身、更に、長年にわたって体験しながら学んできたように、強い自己コントロールを保つこと。私は優れたジャズ・ギタリストとして認められており、最高のミュージシャンたちと共に活動していましたし、ビッグバンドのソロ・ギタリストとしてもかなりの年数活動していました。音楽を聴き取る優れた耳を持ち、自己コントロールを保ちつつ、ギターの録音のために何年も絶えず練習を重ねてきた経験もありました。そして、エレクトリックベースを弾く

よりもずっと前から録音経験を積んでいました。

ベースを弾くことになったのは偶然でした。あるレコーディング・セッション（すでに6年以上の録音経験があった時）で、ベーシストが来なかったのです。私はベースの役割を理解していたので、それをこなすのは簡単でした。そして、気に入りました。更に、録音現場に4～5本ものギターを持ち込む必要もなくなり、1本の楽器、つまりベースだけで済んだのです。

♪ あなたにとって「良いベースライン」とは何ですか？

あらゆるスタイルの音楽を理解し、演奏することができたこと、そして、バンド全体が頼りにしているベースの低音域（ベースの役割の土台部分）の重要性を理解していたことです。ヒットレコードを録音するにあたって、バンド全体とシンガーを支えるベースラインを作ることが重要です。

♪ あなたは「グルーヴ」をどう定義しますか？

それは、完璧なタイム感で演奏するということです。走りすぎたり、もたついたりしないこと。ビッグ



バンドとシンガーを支えながら、グルーブがうまく生まれ、スムーズに前へ進むように、全体の流れをサポートするように演奏しました。

バンドやジャズ・グループは常に優れたタイム感で演奏していましたし、それは私がずっとやってきたことでもあります。正確なタイム感がなければ、音楽の中で一体感のある役割を果たすことはできません。

♪ **何千曲も演奏してきたあなたにとって、「本当にグルーブしている」瞬間とはどんな状態ですか？それはテクニクとは別のものですか？**

一緒に演奏すること。いいえ、それは経験に裏打ちされた優れたテクニクの一部です。

♪ **あなたが「弾きすぎない」と決める瞬間は？あなたは派手なソロよりも、曲を良くするラインを選び続けてきました。弾きたい気持ちを抑える判断基準は何ですか？**

繰り返しになりますが、それは経験なのです。私はソロ奏者ではなく、ソロ奏者を支えなければなりません。それは曲の種類や、歌手がどのように歌うか、そして、何人編成（何人の奏者）で演奏しているかによって変わります。

♪ **あなたは何百曲も「名前が出ない演奏」をしてきました。その匿名性は、あなたにとって自由でしたか？それとも葛藤でしたか？**

スタジオ・ミュージシャンとして仕事を引き受ける時、それを“名声”のためにやることは決してありません。ヒット録音を生み出す手助けをするために最も高い報酬を支払われ、報酬はユニオン（労働組合）を通して支払われます。それは年金や後のロイヤリティにもつながります。音楽業界で最も高給を得るプロフェッショナルなのです。私たちは無名でいられることを好んでいました。名声というものは疲れるし、真実味のあるものではないからです。

♪ **エレキベースとアップライトベース、それぞれ演奏する時の心構えや感じ方に違いはありますか？**

私はアップライトベース（ウッドベース）を一度も弾いたことはありません。私は優れたジャズ・ギタリストとして認められていました。エレクトリックベースはアップライトベースよりも多くの音色を出せるため、バンドやシンガーを支える上でより大きな自由度があります。彼らの「邪魔をする」のではなく、支え、そしてシンガーや音楽に注意が向くようにすることが重要です。

♪ **若い頃に影響を受けたジャズ・ベーシストの中に、リロイ・ヴィネガーはいましたか？実は本誌のタイトルは、彼のニックネームに由来しています。**

私はリロイ・ヴィネガーと一緒に演奏していました。そう、彼は偉大なミュージシャンの1人です。しかし、私の演奏も、フィーチャーされるギター・ソロイストとして同じくらい優れていましたし、当時はよく知られてもいました。ただし、アメリカ国外の人々には知られていませんでしたが、これまでずっと言ってきたように、私は決して“名声”のために演奏したのではありません。演奏することが好きだったから演奏していたのです。あなたがジャズを演奏するのも、同じ理由でしょう。

♪ **以下の2人のベーシストについて聞かせて下さい。**

ジェームス・ジェマーソン

彼が最終的にロサンゼルスに移った時、私は彼が仕事を得るのを手伝いました。彼はモータウンのレコーディング初期には素晴らしい存在でしたが、残念ながら飲酒の問題を抱えていたため、その後はあまり仕事ができなくなってしまいました。



ポール・マッカートニー

彼は、自分のグループで録音していた種類の音楽には合っていました。ただ、こちら（アメリカ）のスタジオ・ミュージシャンのようなプロフェッショナル・ミュージシャンではありませんでした。でも、彼は感じの良い人でしたし、自分のイギリスのグループにとって、そのスタイルの音楽ではうまくやっていました。

♪ 昨年 2025 年の Rock & Roll Hall of Fame (Musical Excellence 部門) の授賞式への出席を辞退する意向を明言されましたが、その決断に至った背景を、差し支えない範囲でお聞かせ頂けますか？

彼らは、アーティストが連れて行きたい誰に対しても 1 席につき 1 万ドル請求しますし、更にアーティストの楽器を無料で提供して、自分たちのロックの殿堂博物館に展示したいとも言います。私はこれまでにたくさんの素晴らしい賞を受けてきましたが、一度もそれにお金を払ったことはありません。

そして、あそこは“ロック”のための殿堂です。私はジャズ・ミュージシャンで、スタジオワークでソロを務めたこともありません。私はジャズ・ミュージシャンであり、生涯教育者でもあります。ロックの殿堂にいるロッカーたちとはまったく違うのです。正直に言えば、あそこはあまり良い組織だとは思っていません。



私はカリフォルニア音楽殿堂に入っており、こちらの方がはるかに正統な栄誉です。他にも多くの賞があります。Women in Music Pioneer Award、ASMAC Composers-Arrangers Award、Local 47 AFM Union Award など、本当に価値のある賞ばかりです。私の考えとしては、ロックの殿堂 (RRHOF) が人々からお金を取って殿堂入りさせようとする試みは、あまり良くないと思っています。また、そう思っているのは私だけではありません。

♪ あなたの演奏は世界中の人に届きました。困難な時期に、特にあなたを励ましてくれた音楽はありますか？

いいえ、私は家族を養うために必要な音楽を自分で作り、私たちのミュージシャンズ・ユニオンを敬いながら、年金や後のロイヤルティを確保してくれたユニオンに感謝しました。私は自分自身のサポートを作り上げたのです。そして、残念ながら、“名声に関わること”がトラブルを招くのです。人々があなたから盗もうとしたり、他の人たちがあなたの子どもたちを傷つけようとしたり。

おそらく私がやっていたことをやっていた唯一の女性だったからでしょう。当時、スタジオワークでは数人の女性ヴァイオリニストや数人のピアニストはいましたし、多くのハーピストもいましたが、1960 年代の忙しい時期のリズム・セクションには女性はいませんでした。それが、悪意ある人々があなたから盗もうとする注目を集めてしまうのです。幸いなことに、私はコーヒーしか飲まず（たばこも吸いませんでした）、そうした悪意ある人々に対して警戒を保つことができました。

♪ SNS も自己ブランディングもない時代に、あなたは どうやって「信頼される存在」になったのですか？



私の長年にわたる誠実で優れたキャリアにおいて、常に働き続けてきました。それだけです。

♪ 20代のスタジオに初めて入った日の自分に、今のあなたが一言かけるとしたら、何と言いますか？

今日では録音が行われていません。音楽を演奏したい人は、経験豊富な（ロック系ではない）教師から学びなさい。彼らはコードやコードの移動方法を知っており、単にロックやブルースの3つのコードだけを教えるものではありません。音楽は複雑であり、その複雑さを学ぶには、経験豊富な年長の教師から学ぶ必要があります。

♪ あなたのベーシスト魂を表す言葉で自己紹介して下さい。

私は毎日練習していました。そして、ビッグバンドやよく知られたジャズ・グループでギター・ソロイストとして演奏することで、早くから演奏を学びました。残念ながら、今ではそのような機会はほとんどありません。練習を続け、可能な限り最高のメンバーが揃ったグループでのみ演奏しなさい。

♪ 最後に、「The Walker's」の読者、そして、日本のファンの皆さんへメッセージをお願いします。

私は日本のすべての人々、そして、演奏を学ぼうとしている人々を深く尊敬しています。学んでいる時に自分自身に話しかけたりせず、1日1時間だけ

でも練習し、音楽を学びなさい。それは言葉ではなく、音であり、音楽は私たち全員の心に響きます。言葉のように嘘をつくことはありません。音楽は決して嘘をつかないのです。

良い音楽は、人々の善さのために常に必要です。良い音楽を聴いた時に自分がどれほど良い気分になるかに注目してください。それが、良い音楽の重要性を示しています。できる限り上手に演奏しなさい。常にです。そうすれば、様々な形で報われるだけでなく、世界に「良いもの」を提供することにもなります。

詳しくは、1995年から公開している私のウェブサイトをチェックしてみてください。ありがとう！

【キャロル・ケイ オフィシャルウェブサイト】

<https://www.carolkaye.com>

『キャロル・ケイ自伝 (Carol Kaye Autobiography)』



全 502 ページ。活動記録、人生史、スタジオ秘話を収録
<https://shop.carolkaye.com/carol-kaye-autobiography/>